

意見・要望等	庁舎建設基本計画策定委員会の協議結果
序章 4. 都市構造 100年に1度、1000年に1度の表現	
100年に1度、1000年に1度の表現があるが1度しか起こらないととえられてしまう。再考の余地はないか。	桐生市水害ハザードマップの表現を採用し、100年に一度を「これまでの観測記録から発生頻度が約100年に一回の大雨」、1000年に一度を、「発生頻度は極めて低いが理論上起こりえる最大の大雨」に変更する。最終校正時に対応。
防災、災害対策における職員対応	
防災・災害対策拠点を作ることも大事だが職員の対応が重要。計画に反映を。	設計の与条件を決める庁舎建設基本計画への記載は難しいため、防災・危機管理課へ対応を依頼。
第3章 基本理念4「本市の特性を生かした」	
「本市の特性を生かした」という表現は人によって捉え方に違いが出てしまうのではないか。	気候、立地、織物産業など「特性」について付記する。最終校正時に対応。
序章 3. 人口動態 人口構成	
人口構成の指標はあるのか。	庁舎は50年以上活用するものであり、見通しとして来庁者の年齢層の指標にもなることから反映させる。最終校正時に対応。
序章 3. 人口動態 人口推移	
市が出している目標と国が出している統計の数字のどちらを採用しているのか。	人口減少が進むことなど市の現状を説明する部分。国（社人研）の数値と政策反映後の目標人口が示された人口ビジョンの数値両方を記載する。最終校正時に対応。
財政面の市民等の参画	
クラウドファンディングやふるさと納税などにより市民や桐生市出身の人などと一体となって建設することで桐生市の象徴になるのでは。	財源を確保することができないと捉えられる可能性があるため基本計画には盛り込まないことと致したい。
庁舎敷地の市民利用	
敷地内に市民が集まれるようなスペースを作る計画はあるか。	駐車場の不足が指摘されている中で常時市民が集まれる大きなスペースの確保は難しいと考えている。
有識者会議委員の具体的な要望	
現在の庁舎でも実現できそうなものについて現段階で実行していくことはできないか。設備等ではなく、人で対応できるものについては進めてほしい。	「具体的な要望」を担当課に伝え、現庁舎での対応の可否、可能であればどのような対応となるのか回答をもらう。 【資料 1－2】を参照
有識者会議委員の意見・提案	
有識者会議委員の意見・要望の扱いはどうなるのか。	最大限意見を反映した計画の素案を作成している。いただいた意見等は策定委員会でも提示し協議されている。反映状況を把握したうえで計画策定の進捗状況により有識者会議で説明する。